

東京都写真美術館年報

2013 - 2014

TOKYO
METROPOLITAN
MUSEUM
OF
PHOTOGRAPHY

東京都写真美術館年報／2013-14
Annual Report: Tokyo Metropolitan Museum of Photography
2013-14

はじめに

東京都写真美術館の平成25年度の目標を「楽しみ方いろいろ美術館」として、展覧会をより楽しむため、展覧会の理解を深めるために、ギャラリートークやシンポジウムなどの内容等を充実させ、潜在的なお客様を増やす多彩な事業に取り組んだ結果、40万人を超える多くのお客様にご来館いただきました。6月30日には平成27年の総合開館以来入館者数が600万人を突破し、記念セレモニーを実施しました。

展覧会事業では、楽しみ、学び、体験し、つながりを深めていくことを目指し、当館所蔵のコレクションを活用したシリーズ展、調査・研究に基づいた多彩な企画展、当館重点収集作家の個展や新進作家の作品展、国内外の幅広いネットワークを活かした国際展など、関係団体、企業、出品作家の協力のもと、22の展覧会を開催しました。展覧会では、作品に親しみ美術館を身近に感じていただけるよう、出品作家や当館学芸員によるギャラリートーク、対談等の更なる充実を図ったほか、図書館司書による関係資料紹介などを積極的に進めました。

6回目を迎えた「恵比寿映像祭」では「トゥルー・カラーズ」をメインテーマとして、国内外の作家、ゲストによる多彩な映像作品の展示、上映、ライブ、トークなどさまざまなプログラムを展開したほか、恵比寿ガーデンプレイスとの協力、地域における文化施設との連携を積極的に進め、関連イベントを実施しました。さらに映画ファンの期待にも応える美術館として、「アート&ヒューマン」をテーマとして選んだ映画作品を年間18本上映し、幅広い年齢層のお客様にご鑑賞いただきました。

教育・普及では、ボランティアのみなさまのご協力のもと、学校と連携した多様なスクールプログラムや、初心者から上級者までを対象にした当館ならではの多彩なワークショップを開催し、写真や映像を通じて豊かな学習の場を提供してまいりました。

写真美術館の基盤をなす作品収集におきましては、東京都をはじめ当館支援会員である企業、団体、作家のみなさまからのご支援により厳選した質の高い作品、歴史的にも貴重な作品、915点を新たなコレクションとして加えることができました。

これらのコレクションはもとより、内外のすぐれた作品をより身近なものとして、多くの方にご覧いただき、誰にも喜ばれ親しまれる美術館となるよう、今後ともさらなる努力を積み重ねてまいります。

本書が、みなさまにとって当館を知るための参考になれば幸いです。

東京都写真美術館

目次

平成25年度事業

東京都写真美術館の基本的性格	5
東京都写真美術館の事業内容	6
東京都写真美術館の戦略的運営	7
展覧会事業	13
教育普及事業	25
作品資料収集／作品収集実積	32
平成25年度収蔵作品の紹介	35
調査研究・普及活動（個人）	41
広報事業	46
保存科学研究室	51
図書室	53
実験劇場	55
友の会	62
支援会員	63
ミュージアムショップ／カフェ	67
数字からみた写真美術館	68
条例	73
施行規則	76
開館の経緯／組織図	78
平面図／施設面積／建物概要／設備概要	79
利用案内	81



東京都写真美術館の基本的性格

東京都写真美術館は、我が国初の写真の総合的専門美術館です。中心となる「写真美術館」に、映像分野全般について、文化と技術の両面から総合的にとらえ体験できる「映像工夫館」*を付設した、多くの都民にとって親しみやすく、また多様な関心に応えることが可能な新しい文化施設です。そしてこの美術館は、次のような基本的性格を持っています。

- a 写真の総合的専門美術館として、収集、展示、保存、修復、調査、研究、普及などを含めた総合的な活動を行います。
- b 写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とします。
- c 写真芸術・文化を普及するために、人々が気軽にすぐれた写真作品を鑑賞し、学ぶとともに、美術館の諸機能を積極的に享受できるような、開かれた施設とします。
- d 写真に関するあらゆる情報を集約するとともに写真を含む映像全般に関する調査・研究を行う施設とします。
- e 日本における写真文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指します。
- f ワークショップなど参加型機能をもつとともに、人々の創作活動をサポートする施設として、国内外の写真作家や人々が広く交流しうる場を備えた施設とします。
- g 歴史的な映像文化に関する展示と最先端の映像表現を体験的に享受できる「映像工夫館」を併設し、映像メディアの発達の歴史を学ぶとともに多様な表現の可能性を探ります。

(平成3年8月東京都策定「東京都写真美術館基本計画」より)

*なお「映像工夫館」では現在「地下1階展示室」として「映像展」をはじめ各種展覧会を開催している。



東京都写真美術館の事業内容

1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している約3万点以上の写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展のほか、支援会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体との誘致展など多種多様な企画を実施する。

2. 教育普及事業

講演会やカフェ・トーク、ワークショップ（写真ワークショップ、映像ワークショップ、子どもワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、ガイドツアー、美術館ボランティア事業などを実施する。

3. 作品資料収集

収集の基本方針および写真作品収集の新指針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集、保存、管理。収蔵作品の閲覧サービスを実施する。

4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）。

6. 情報システム

収蔵作品および図書資料の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施する。

7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

9. 実験劇場

1階ホールで、将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品の中から、写真美術館にふさわしい映画を先駆けて上映を行う。

10. 支援会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人支援会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開させる。

東京都写真美術館の戦略的運営

東京都写真美術館のミッション

東京都写真美術館は、平成7年に恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館しました。わが国初めての写真と映像に関する総合美術館として開設され、写真・映像の文化の発展を目的に誕生しました。開館10周年を経た今日、当館運営に当たってのミッションは以下のとおり考えます。

平成18年3月2日 東京都写真美術館館長
福原 義春

「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、 センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。」

<過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館>

貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子供や若者達に積極的に文化発信を行います。

<質の高い写真・映像文化と出会う美術館>

社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

<写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館>

美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

<写真・映像文化の拠点として貢献する美術館>

国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

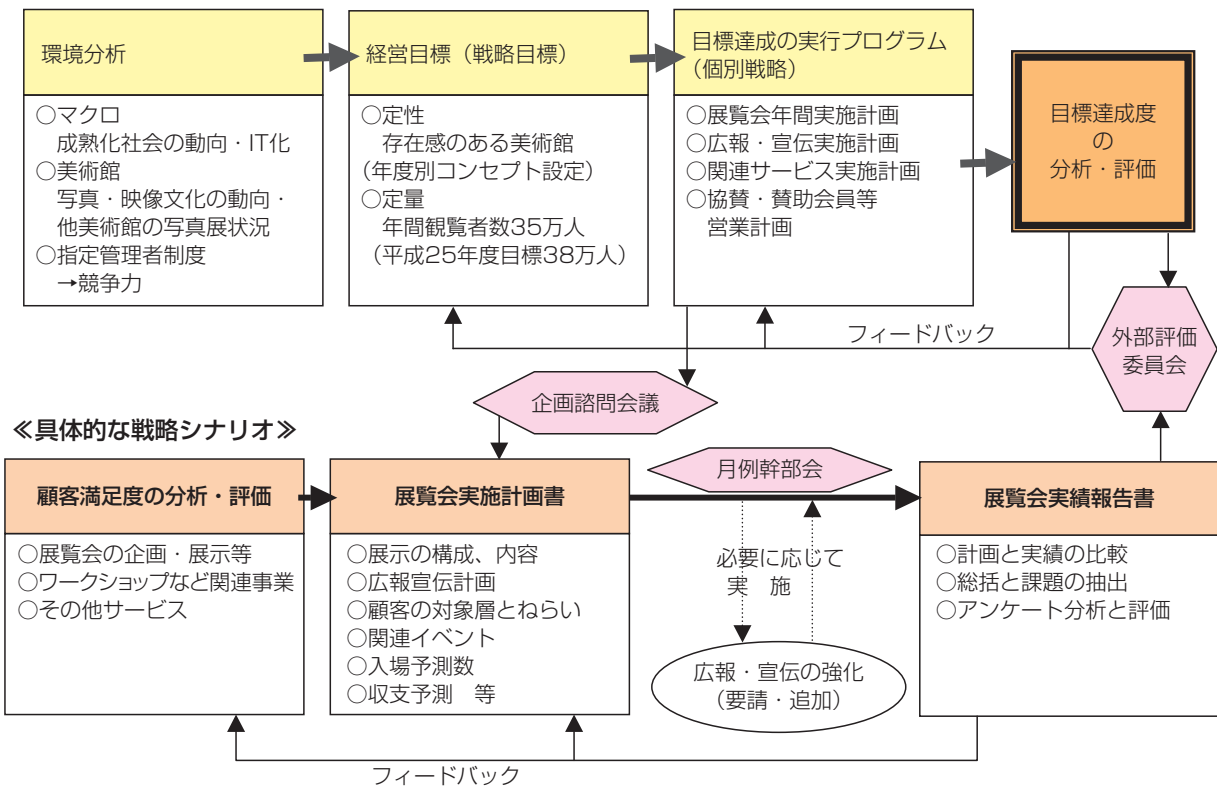
<開かれた美術館>

来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

当ミッションは平成18年3月2日に策定した。

写真美術館における戦略的運営システム

写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



「経営目標の設定」

定性目標 「存在感のある」美術館運営

とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。
 ○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。
 ○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

★年度別コンセプト

平成13年度 「静かな賑わい」
 平成14年度 「写真(映像)とは何かを伝える」
 平成15年度 「感動を与える」
 平成16年度 「明るく迎える美術館」
 平成17年度 「信頼される美術館」
 平成18年度 「判りやすく説明する美術館」
 平成19年度 「対話する美術館」

平成20年度 「顔が見える美術館」
 平成21年度 「交流を広げ、つながりを強める美術館」
 平成22年度 「お客様のニーズにチャレンジ！」
 平成23年度 「広報マインドと実践」
 平成24年度 「発信、写美から世界へ」

平成25年度 「楽しみ方いろいろ美術館」

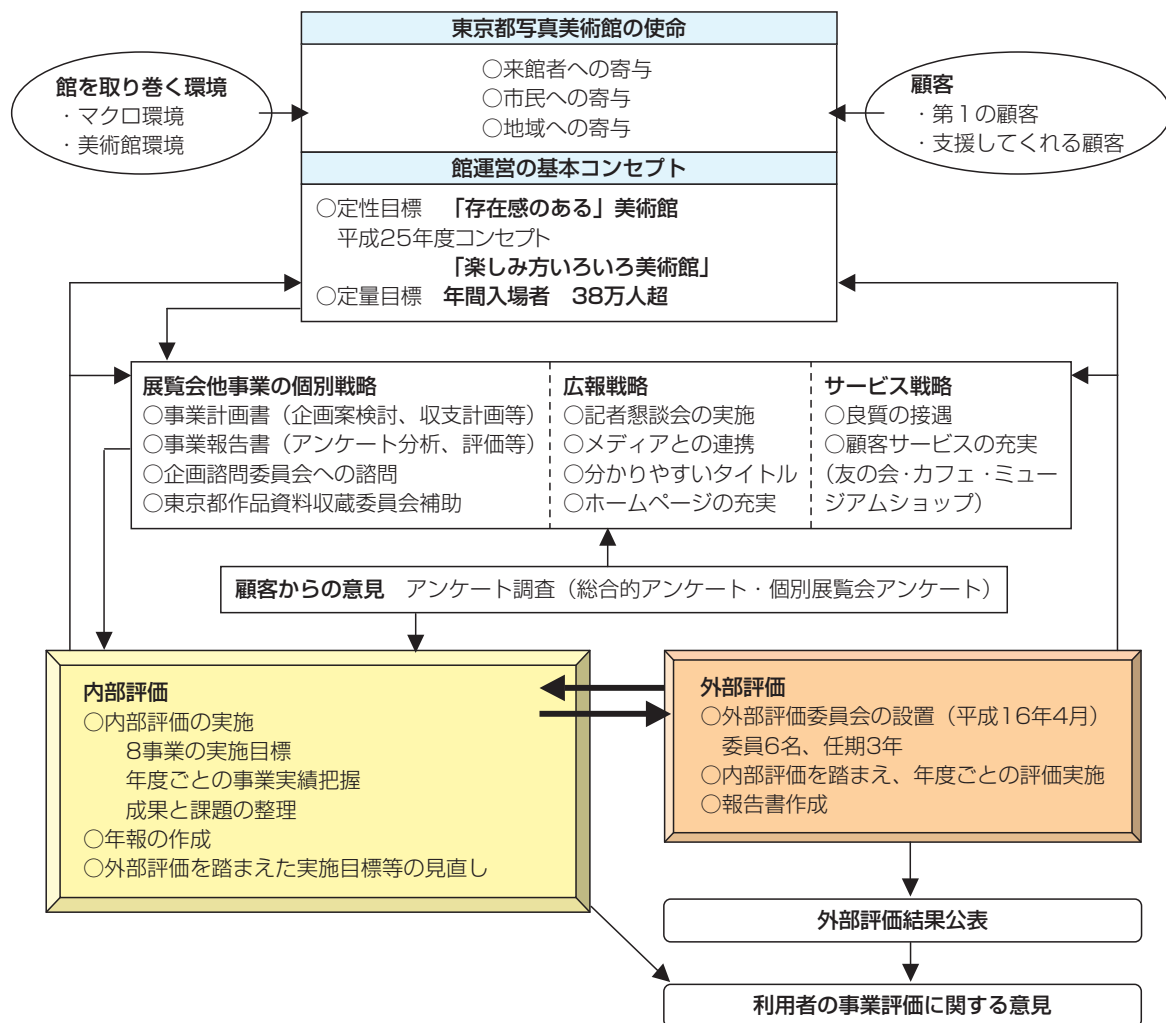
定量目標 年間入館者 38万人超

平成13年度 227,183人 (前年度比 1.04倍)
 平成14年度 364,307人 (// 1.6倍)
 平成15年度 413,289人 (// 1.1倍)
 平成16年度 431,521人 (// 1.04倍)
 平成17年度 441,705人 (// 1.02倍)
 平成18年度 443,107人 (// 1.01倍)
 平成19年度 365,871人 (// 0.83倍)

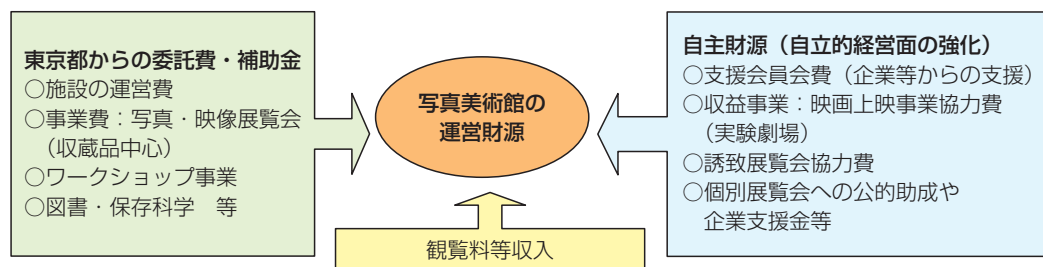
平成20年度 415,456人 (前年度比 1.14倍)
 平成21年度 428,514人 (// 1.03倍)
 平成22年度 427,223人 (// 0.99倍)
 平成23年度 429,657人 (// 1.01倍)
 平成24年度 407,382人 (// 0.95倍)

平成25年度 404,256人 (前年度比0.99倍)

館運営と事業評価の概念



運営財源



平成25年度 コンセプトと取組み

中長期的な目標である「存在感のある美術館」を達成するための活動として、平成25年度のコンセプトを設定した。

「楽しみ方いろいろ美術館」

展覧会、教育普及事業、実験劇場をはじめとして、写真・映像の魅力をさまざまな形で発信する写真美術館の活動を広く普及し、潜在的なお客様を増やす取組みを行った。

◆ 展覧会

魅力あふれる展覧会の開催とともに、展覧会をより楽しむため、展覧会の理解を深めるために、担当学芸員によるギャラリートークなど多彩な事業を実施。

◆ 教育普及事業

写真、映像について学ぶワークショップ（モノクロ銀塩プリントなど）を数多く実施。

スクールプログラムでは、体験学習のプログラム内容をさらに充実。

◆ 恵比寿映像祭

国際的な映像祭として定着してきた恵比寿映像祭では、展示、上映、オフサイト展示など、さまざまな方法で映像表現の今を体験。

◆ 実験劇場関連

トークショーやアフタートーク・イベントなど、実験劇場の上映作品をより楽しむプログラムを実践。



「手仕事のアニメーション」トークイベント
写真提供：(株) ロボット

◆ 図書室

展覧会に合わせて図書室内で展覧会関連図書を紹介展示。
(14件332冊)

◆ 友の会向けイベント

特別内覧会・ワークショップ「モノクロ銀塩プリント(ハイブリッド方式)」を開催したほか、展覧会関連企画として「江戸城散歩」を実施。

◆ 支援会員向けイベント

支援会員向けにギャラリートーク・講演会を実施。

◆ 広報活動

通常の広報に加え、それぞれの展覧会に合った媒体で広報活動を展開するとともに、初めての来館者に向けて、展覧会だけではない楽しみ方を提供。

平成25年度 会議実績

企画諮問会議

座長	建畠 哲	京都市立芸術大学学長
副座長	林 道郎	上智大学国際教養学部教授
	倉石 信乃	明治大学大学院理工学研究科教授
	蔵屋 美香	東京国立近代美術館美術課長
	岸 桂子	毎日新聞学芸部記者
	神谷 幸江	広島市現代美術館学芸担当課長
	浅葉 克己	アート・ディレクター

開催日 平成25年9月19日(木)
議 題 東京都写真美術館の取組みについて
平成29年度の展覧会企画提案

外部評価委員会

座長	樺山 紘一	印刷博物館館長
副座長	鈴木杜幾子	明治学院大学教授(文学部芸術学科)
	三浦 篤	東京大学大学院総合文化研究科教授
	清水 真砂	世田谷美術館学芸部長
	小川 敦生	多摩美術大学美術学部教授 (元日本経済新聞社文化部記者)
	矢野 富子	写真美術館ボランティア

第1回外部評価委員会
開催日 平成25年5月15日(水)
議 題 外部評価方法の確認及び平成24年度事業実績について報告

第2回外部評価委員会
開催日 平成25年6月26日(水)
議 題 平成24年度事業全部門について総括と最終評定を討議

作品資料収蔵委員会

【収集部会】		
委員長	高階 秀爾	大原美術館館長
	岡野 晃子	IZU PHOTO MUSEUM館長
	香川 檀	武蔵大学人文学部教授
	榎木 野衣	多摩美術大学美術学部教授
	竹内万里子	京都造形芸術大学准教授
	田中 正之	武蔵野美術大学教授

【評価部会】	
石井 孝之	タカ・イシイ・ギャラリー代表
和光 清	ワコワークスオブアート代表取締役
太田 泰人	女子美術大学芸術学部教授(特任)
松永真太郎	横浜美術館学芸員
佐谷 周吾	シュウゴアーツ代表
杉山 悦子	世田谷美術館企画担当課長
増田 玲	東京国立近代美術館主任研究員
光田 由里	公益財団法人渋谷区美術振興財団学芸員

開催日 平成25年11月15日(金)
議 題 平成25年度新規収蔵作品の選定

記者懇談会

第1回記者懇談会
開催日 平成25年6月12日(水)
議 題 平成24年度の事業実績及び平成25年度の活動方針説明

第2回記者懇談会
開催日 平成26年1月16日(木)
議 題 平成24年度事業外部評価の報告
平成25年度及び平成26年度新企画紹介
平成25年度新規収蔵作品の紹介及び実見

平成25年度 トピックス

- 5月15日 第1回外部評価委員会
外部評価方法の確認及び平成24年度事業実績報告
- 6月12日 第1回記者懇談会
平成24年度事業実績及び平成25年度活動方針説明
- 6月26日 第2回外部評価委員会
平成24年度事業全部門総括と最終評定を討議
- 6月30日 総合開館以降の入場者数 600万人達成
- 7月1日 写真映像文化振興支援協議会理事会及び懇親会
平成24年度の事業実績報告及びギャラリートัวร์・
懇親会の実施
- 7月18日～9月27日
夏の夜間開館時間延長実施
木・金の夜間開館時間20時までを21時まで延長
- 9月16日 敬老の日 展覧会無料サービス
65歳以上のお客様は展覧会が全て無料となるサー
ビスを実施
- 9月19日 第1回企画諮問会議
東京都写真美術館の取組みについて
平成29年度の展覧会企画提案
- 10月1日 都民の日 展覧会無料サービス
- 11月15日 作品資料収蔵委員会
平成25年度新規収蔵作品の選定
- 1月2日・3日
お正月特別開館
2日は展覧会無料、3日は割引サービスを実施。
この他イベント多数実施
- 1月16日 第2回記者懇談会
平成24年度事業外部評価の報告
平成25/26年度の新企画及び平成25年度新規収蔵
作品の紹介

－受賞－

- 「米田知子 暗なきところで逢えれば」展
平成25年度（第64回）芸術選奨文部科学大臣新人賞
- 「須田一政 凧の片」展
平成26年日本写真協会賞作家賞